

死とつきあう10の方法

コヘレトの言葉から

シリーズ～旧約聖書入門～
2012年召天者記念礼拝

①死はすべての人に等しくやってくる

賢者も愚者も、永遠に記憶されることはない。
やがて来る日には、すべて忘れられてしまう。
賢者も愚者も等しく死ぬとは何ということか。

2: 16

②死は人間も生き物であることを教える

人の子らに関しては、わたしはこうつぶやいた。
神が人間を試されるのは、人間に、自分も動物
にすぎないということを見極めさせるためだ、と。
人間に臨むことは動物にも臨み、これも死に、あ
れも死ぬ。同じ霊をもっているにすぎず、人間は
動物に何らまさるところはない。すべては空しく、
すべてはひとつのところに行く。すべては塵から
成った。すべては塵に戻る。 3:18-20

③死ぬ時は神が定めておられる

何事にも時があり

天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時

植える時、植えたものを抜く時

3:1-2

④誰にも死を支配できない

人は霊を支配できない。

霊を押しとどめることはできない。

死の日を支配することもできない。

戦争を免れる者もない。

悪は悪を行う者を逃れさせはしない。

8:8

⑤生きる苦しみがないことにおいて、 死は生より幸いである

既に死んだ人を、幸いだと言おう。更に生きて行かなければならない人よりは幸いだ。いや、その両者よりも幸福なのは、生まれて来なかった者だ。太陽の下に起こる悪い業を見ていないのだから。4:2-3

事の終りは始めにまさる。7:8

⑥死んだら何もできなくなる

命あるもののうちに数えられてさえいれば
まだ安心だ。

犬でも、生きていれば、死んだ獅子よりましだ。

生きているものは、少なくとも知っている
自分はやがて死ぬ、ということ。

しかし、死者はもう何ひとつ知らない。

彼らはもう報いを受けることもなく

彼らの名は忘れられる。 9:4-5

⑦死ぬ時は何も持って行けない

人は、裸で母の胎を出たように、裸で帰る。
来た時の姿で、行くのだ。労苦の結果を何ひとつ持って行くわけではない。これまた、大いに不幸なことだ。来た時と同じように、行かざるをえない。風を追って労苦して、何になろうか。

5:14-15

⑧死に様が大切

人が百人の子を持ち、長寿を全うしたとする。
しかし、長生きしながら、財産に満足もせず
死んで葬儀もしてもらえなかったなら
流産の子の方が好運だとわたしは言おう。

6:3

⑨常に死を身近に置く

名声は香油にまさる。
死ぬ日は生まれる日にまさる。
弔いの家に行くのは
酒宴の家に行くのにまさる。
そこには人皆の終りがある。
命あるものよ、心せよ。
賢者の心は弔いの家に
愚者の心は快楽の家に。

7:1-4

⑩死後、霊は神に帰る

塵は元の大地に帰り、
霊は与え主である神に帰る。

12:7

死とつきあう10の方法

- ① 死はすべての人に等しくやってくる
- ② 死は人間も生き物であることを教える
- ③ 死ぬ時は神が定めておられる
- ④ 誰にも死を支配できない
- ⑤ 生きる苦しみが無いことにおいて死は生より幸いである
- ⑥ 死んだら何もできなくなる
- ⑦ 死ぬ時は何も持って行けない
- ⑧ 死に様が大切
- ⑨ 常に死を身近に置く
- ⑩ 死後、霊は神に帰る